

国指定史跡

兩宮山古墳



岡山県赤磐市

古墳の概要 -吉備の三大古墳のひとつ-

岡山県赤磐市、吉備の東南部に位置する前方後円墳です。平成14～16年度の確認調査によって、現在水をたたえた内濠の外側で外濠が発見され、あわせて二重の周濠をもった古墳であることが判明しました。墳丘の全長は206mをはかり、岡山県内では造山(360m)、作山古墳(286m)に次いで3番目、備前地域では最大の規模となります。

造られたのは5世紀後半(約1,500年前)で、吉備の大首長のお墓であったと考えられます。



▲中堤上から墳丘を眺める(南から)

外濠の発見

発掘調査によって、現在田畑の広がる中堤より外に外濠が発見されました。外濠は古墳を完周し、後円部側では幅約13m、前方部側で幅約20mをはかります。二重の周濠は畿内の大王墓を中心にみられ、広大な墓域を形成する役割も果たしています。



▲前方部前面の外濠(西から)

中堤の築造

二重の濠の間には中堤が設けられています。古墳築造以前の地形が後円部から前方部に向かって下降しているため、後円部北側は地山を削りだして、前方部前面はほぼ盛土によって構築されています。その延長は960mに及び、築造にかかる作業量は膨大であったと推察されます。

中堤内側の調査状況(北東から)▶



和田茶臼山古墳 -両宮山古墳の陪塚-

両宮山古墳後円部の北側に位置する帆立貝形(はたてかいがた)の前方後円墳です。墳丘全長55mの規模をはかります。この古墳も、両宮山古墳と同様に二重の周濠をめぐらすことが発掘調査により判明しています。主墳である両宮山古墳と極めて計画的に配置された古墳で、主墳に葬られた人物と親密な関係が想定されます。



▲和田茶臼山古墳の後円部と外濠の調査(東から)

古墳の総長 349m

両宮山古墳が二重の周濠をもつことが確認されたことから、墳丘だけでなく、これを取り囲む内濠・中堤・外濠までを含めた古墳の総長は主軸線上で349mとなります。墳丘本体はまだ未調査ですが、周囲の調査によりこの両宮山古墳が畿内大王墓に次ぐ格付けをもって築かれた古墳であることが明らかとなりました。



▲後円部北西側の外濠(西から)



アクセス

車：山陽自動車道山陽 I.C. から北へ約 1.3 km、下市交差点を西へ約 2 km。
バス：岡山駅から、宇野バス（山陽団地・ネオポリス・林野駅方面）で「新道・穂崎下」下車、北へ徒歩 200m。



② 塔跡に立つ石造七重塔



③ 空中から

① 両宮山古墳

② 備前国分寺跡 (国史跡)

奈良時代、聖武天皇の発願によって建立された官立寺院。その規模は南北 200m、東西 180m に及びます。南門・中門・金堂・講堂・僧房が一直線上に並び、東南には塔を配しています。

③ 森山古墳

墳丘全長 82m の帆立貝形前方後円墳で後円部の高さが際立ち、周囲には周濠をめぐらしていました。葺石と埴輪をともない、両宮山古墳に続く首長墳と考えられます。

④ 廻り山古墳

墳丘全長 47m と推定される前方後円墳です。墳丘は畑の開墾が著しいですが、大きく開いた前方部を北に向けており、6 世紀前半の築造と考えられています。

⑤ 備前国分尼寺跡

備前国分寺跡から県道を挟んで南に仁王堂池があり、この付近が備前国分尼寺跡と想定されています。備前国分寺跡と同型式の軒瓦が出土しています。

⑥ 朱千駄古墳

墳丘全長 85m をはかる前方後円墳で、後円部には長持形石棺が置かれていたようです。中からは、この古墳名の由来となった大量の朱とともに銅鏡、玉類、刀剣類が出土しました。5 世紀末に築造されたと考えられます。

⑦ 小山古墳

墳丘全長 54m の前方後円墳で、この古墳上には阿蘇溶結凝灰岩製の古式家形石棺が破片となって所在しています。埴輪列がめぐっており、5 世紀末の築造と考えられます。

⑧ 岩田 14 号墳

山陽団地造成の際に発掘された全長 11.8m の横穴式石室をもつ後期古墳で、現在も保存されています。中からは、単竜環頭大刀や雁木玉をはじめ大量の須恵器や馬具類が出土しました。出土品は赤磐市山陽郷土資料館に展示してあります。



⑦ 墳丘を望む (北西から)



⑧ 復元保存された古墳 (南から)

発行：赤磐市教育委員会

〒709-0816 岡山県赤磐市下市 337 番地
TEL 086-955-0710 FAX 086-955-0758
ホームページ <http://www.city.akaiwa.lg.jp/>